

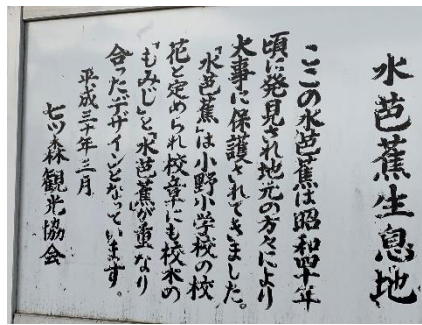


未来を夢見て Season 2

2021/4/21 No. 71

「水芭蕉生息地」を訪ねて～大人の総合的な学習の時間～

4月の休日、一度訪れてみたかった芳の沢の水芭蕉の自生地に行ってきました。昨年は臨時休校中とあって、なかなか学校から外に出ることはできなかったので、いつの間にかすっかり水芭蕉の見頃を逸してしまいました。車で行くことも考えましたが、折角なので旧小野分校（小野コミセン）に車を止めて、歩いて行ってみることにしました。歩くこと約30分。ほどよく汗が額に滲んで来た頃に、目的地「水芭蕉生息地」に到着です。ひっそりとしたその沢には、写真のような立看板が設置されています。そう言えば、記念誌に校章の由来が書いてあることを思い出しました。



校章の由来

小野地方芳の沢に自生する「水芭蕉」と「町木」である「もみじ」の葉を重ね合わせたもので、七ツ森も意味する。水芭蕉の「がく」と「もみじ」の葉が重なり合っているのは、子供たちが心を一つにして共に手を携えて発展していこうとの願いが込められている。

【開校10周年記念誌 『未来を夢見て』より】



まだまだ咲き始めの時期と見えて、大きく育っていないようでしたが、純白の仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれる苞が開いているのに目がとまりました（※仏炎苞は花ではなく葉の変形したものなのだそうです）。昔、小野分校の子供たちがそうであったように、現在の小野小学校の子供たちにもこの水芭蕉を直接観察させたいところではありますが、学年単位（100名前後）で行ったら大変なことになりそうなので実現は難しいようです。でも、先生方には、ぜひ一度見てほしいと思っています。

本校でも、今年度から大和町教育委員会の御指導のもと、GIGAスクール構想を踏まえたICT教育が本格的にスタートします。一方、ソサエティー5.0を生きる子供たちだからこそ、今まで以上に「きれいだ」「いい音」「いいなあ」「大事にしたい」「空気がおいしい」・・・そんな五感を生かした活動を私たちは大事にしていかなければならないのではないのでしょうか。

密やかに佇んでいる美しい水芭蕉が、そんな忘れてはいけない大切なことを静かに語りかけてくれているかのようでした。

（文責：手代木）